

持続する〈ナクバ〉—— 反復されるホロコースト

講演者：小森謙一郎氏

ナクバという言葉をご存知でしょうか？1948年のイスラエル建国以来、パレスチナの人々が被ってきた苦しみを指す言葉です。昨秋から徐々に知られるようになってきましたが、まだ十分とは言えないのが実情かと思います。そこで拙訳『ホロコーストとナクバ——歴史とトラウマについての新たな話法』（水声社、2023年）を踏まえつつ、問題の所在をお話しできたらと考えています。

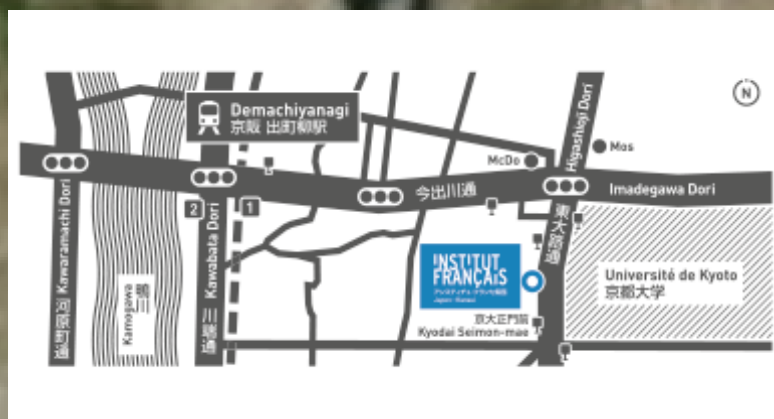
日時：2024年5月11日(土)14:00~16:00

会場：関西日仏学館

・京阪出町柳駅より徒歩12分

・市バス3、17、203系統「百万遍」下車、徒歩3分

・市バス201系統「京大正門前」下車すぐ。



参加費：学生/ロマン・ロラン研究所会員；無料
一般；1,000円

主催：財団法人ロマン・ロラン研究所

問い合わせ先：財団法人ロマン・ロラン研究所(TEL 075-771-3281)

<小森謙一郎氏 プロフィール>

武蔵大学人文学部ヨーロッパ文化学科教授。

専攻は、ヨーロッパ思想史。

著書に『アーレント 最後の言葉』(講談社選書メチエ、2017年)、
『デリダの政治経済学』(御茶の水書房、2004年)、編著に『人文学の
レッスン』(共編、水声社、2022年)、訳書にバシール・バシール+ア
モス・ゴールドバーグ編『ホロコーストとナクバ』(水声社、2023年)、ヨ
セフ・ハイム・イェルシャルミ『フロイトのモーセ』(岩波書店、2014
年)などがある。

<一般社団法人ロマン・ロラン研究所について>

一般財団法人ロマン・ロラン研究所の前身である「ロマン・ロラン友の会」は、ロマン・ロランの思想、芸術、人格への共感に基づき、ロランの理想精神である汎ユマニズムの理解と普及に関する活動を目的とし、敗戦4年目の1949年6月に設立されました。

「友の会」の順調な拡大を受け、1970年12月、「友の会」を発展的に継承する形で、「財団法人ロマン・ロラン研究所」が設立されました。初代理事長には、ロマン・ロランの著作の日本への紹介に尽力した宮本正清氏が就任しています。

以来当研究所は、ロマン・ロランの提唱する、人権と自由の擁護、諸国民相互の尊敬と協力の涵養を目的とし、人類全体の偉大な共有財産として、ロマン・ロランの思想の研究と紹介に努めてきております。

毎月の読書会・研究会のほか、機関紙「ユニテ」の発行や、定期的に講演会や音楽会を開催しております。ホームページは次のとおりです。皆様の参加をお待ちしております。

<https://institut-romain-rolland.jp/>